

医療法人社団 浅ノ川 浅ノ川総合病院

# 患者様にやさしい病院を目指す浅ノ川総合病院 —質の高い医療における超音波診断装置の役割—

編集委員 鎌田英世



浅ノ川総合病院 外観

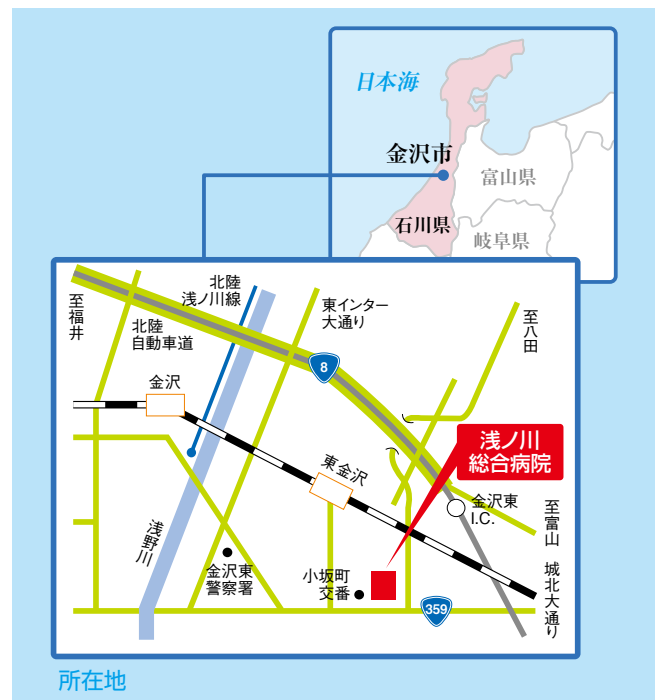
金沢といえばすぐに思い浮かぶのは兼六園ですが、市内北東部に地域密着型の高機能病院として信頼される医療を提供すべく積極的に活動を行っている浅ノ川総合病院があります。

今回、最新の超音波診断装置HI VISION Preirus\*<sup>1</sup>が導入されましたので、その臨床での活用状況や将来展望をうかがうために、訪問しました。

○はじめに浅ノ川総合病院の概要を小市勝之 理事長にお聞きしました。

鎌田：最初に、病院として長い歴史を持っておられますが、沿革をお聞かせください。

小市理事長：社団法人 浅ノ川には5つの病院があり、浅ノ川総合病院を中心として、金沢脳神経外科病院、金沢循環器病院、精神科の桜ヶ丘病院そして、介護療養施設の千木病院があります。



所在地

当初は、まず癌の治療を何とかしないといけないということで、総合病院の方を立ち上げました。浅ノ川総合病院では、現在、PET-CT、NOVALiS<sup>®</sup>2(ノバリス)、Gamma Knife(ガンマナイフ)といった最新鋭の医療機器を導入し、質の高い、最先端の医療を行っています。

一方、死因の上位を占める脳卒中、心疾患に対しても昭和55年に金沢脳神経外科病院、平成3年に金沢循環器病院を開設しました。

また、精神科疾患の重要性が高まっていることから昭和58年に桜ヶ丘神経サナトリウムを新築増強しています。

さらに、高齢者対策として療養、介護を強化するために、平成10年に卯辰山記念病院を千木町に新築移転し、千木病院と改称しました。

このように、重要度の高い疾病に対し対応策を取っていき、かつすべて網羅したいという、前理事長の方針に従い発展してきました。

私も、それを受け継いで努力していきたいと考えています。

**鎌田**：浅ノ川グループの病院に来院される患者さんの地域圏はどれぐらいの範囲ですか。

**小市理事長**：少しローカルな話ですが、金沢には北東に浅野川、南西に犀川が流れています。この、浅野川から北側の金沢市内や隣接の津幡町、かほく市、さらに羽咋あたりの地域からから多くの患者さんが浅ノ川グループの病院来られて

います。浅野川の南側には結構病院が多くありますが、北側には、当院と社会保険病院および金沢医科大学病院の3施設です。医療圏としてはそのような感じになっていると思っています。しかし、金沢脳神経外科病院には金沢近辺だけではなく、能登方面からも結構来られていますし、金沢循環器病院にも結構広範囲から患者様が来られています。

**鎌田**：病院の理念と方針についてお聞かせください。

**小市理事長**：当院では、皆様の信頼を得る、思いやりのある医療を提供することを理念としています。そこで、これを具体的に推進するために、以下の5項目を病院の方針としています。

1. 新しい知識と技術を身に付け、質の高い医療を提供します。
2. 患者の皆様によさしい、活気にあふれる病院を目指します。
3. インフォームドコンセント(説明と同意)に基づいた治療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に貢献します。
5. 安全性を考え、責任のもてる医療を提供します。

今後は、近隣の病院・医院と設備の共同利用等をさらに推し進め、相互に機能補間を図り、総合的な地域医療の展開を目指しています。



小市勝之 理事長



インフォメーション



受付



病院内廊下の絵画

○次にHI VISION Preirus を消化器疾患診断の強力なツールとしてご使用いただいている荒木一朗 内科部長にお話をうかがいました。

鎌田：最初に病院として力を入れておられる点などをお聞かせください。

荒木部長：まず、治療という観点からノバリスの導入による放射線機器治療、そして超音波診断装置と組み合わせた結石破碎に力を入れています。もちろん、超音波診断にも力を入れています。

鎌田：結石の破碎に超音波診断装置を使用されているのですか。

荒木部長：そうです、超音波診断装置を用い、リアルタイムエコーガイド下で結石破碎治療を行っています。これを実施している施設は日本中でもそんなに多くないと思います。

リアルタイムエコーガイド下で結石破碎を行うと、常に石を追いかけながら破碎ができます。X線下では被曝の問題もあり、透視で時々観察しながら破碎を行うこととなり、衝撃で結石が移動していたりするとかなり無駄打ちが多くなってしまいます。無駄打ちをなくすためにはX線を照射し続け、石が動いたらそのまま追いかければ良いのですが、そうするとものすごく被曝量が増えてしまいます。これは侵襲的であり好ましくありません。

鎌田：そのあたりがエコーを用いる利点ですね。

荒木部長：エコーを使えば非侵襲的に常に石を追いかけることが出来ます。フルタイム、リアルタイムに無駄打ちが無く、破碎ができる非常に効果的な方法です。

鎌田：腎臓結石などの破碎を行っておられるのでしょうか。

荒木部長：腎尿路結石は普通にいろいろな病院で実施されて

います。私の専門は、消化器系なので胆石、膵石に対して行っています。胆嚢結石、総胆管結石、膵石、肝内結石、すべて行います。肝内結石ができる場所は全国でも少ないと思います。肝内結石は去年の発表では当施設しかなかったのですが、どのように行っているのか多くの質問を受けました。

鎌田：肝内結石を実施している施設は、全国でもあまりないということですか。

荒木部長：恐らく実施している施設はほとんどないと思います。

鎌田：肝内結石って肝臓のどこにできるのですか。

荒木部長：肝内の胆管内です。肝内結石で感染をおこすと大変ですよ。一気に重症になる例もあります。肝内結石の治療は、通常手術で肝臓自体を取ってしまいます。そういう治療が多いのですが、それを破碎でできるということです。

鎌田：そこに超音波が役に立っているということですね。

荒木部長：そうです。

鎌田：今回HI VISION Preirusを新たに導入いただきましたが、特徴とじておられる点などありましたらお聞かせください。

荒木部長：まず、画面が大きいことが良いと思います。画像が粗ければ画面を大きくすると粗が目立つということになりますが、HI VISION Preirusなら大丈夫でしょう。

また、血流は今までに比べて格段にきれいに出ていますし、感度も間違いなく上がっています。後は、コンパクトで多機能であるということですね。これらのことから、私としては大変良い装置だと思っています。

今後はプローブも新しい製品がさらに追加されていくと思いますので期待しています。うちには元地さんと高橋さんという2人の優秀な超音波技師がいますので、彼らにおんぶに



荒木一朗 内科部長(左)、高橋美津子 技師(中)、元地進 技師(右)とHI VISION Preirus



EUB-8500

だっこで仕事をして貰っています。

この新しい装置が戦力として加わったことで、さらに仕事の効率が上がるのではないかと期待しています。

また、超音波造影を実施できる装置が2台になったので、今後ますます造影の件数が増えていくと思っています。

鎌田：先ほど、別室でRVSを見せていただいたのですが、RVSの有用性について教えていただけますでしょうか。

荒木部長：当病院は研修医が大勢来ているので、RVSは教育に非常に役立っています。エコーとCTの画像を比べて位置関係が把握でき、CT画像の読影にも役立っています。もちろん穿刺の補助もありますが、初心者の最初の導入教育に一番役立っていると感じています。

また、超音波検査技師の教育にもなります。ラジオ波治療についても見えにくい症例では二つの画像を合わせてみて、確かめるようにして行っています。

さらに、治療効果を治療が終わった直後に、CTでの造影の範囲と比べながら、判定が可能である点が非常に有効であると思っています。

鎌田：操作性に関して、こういった点が良かったというのは、何かありますか。

荒木部長：プローブが軽いですね、プローブがものすごく軽くなりました。それと、全体的に小型化されましたね。本体もプローブも、非常に使いやすくなっていると思います。

○最後荒木部長のもと日々当社超音波診断装置を使用している元地進 技師にお話をうかがいました。

鎌田：HI VISION Preirusをご使用になり、特徴と感じておられる点などをお聞かせください。

元地技師：使い勝手は大変良いと思います。また、画質的にはファンダメンタルが非常にきれいだと感じています。もち

ろん、ハーモニックも良くなっていますね。そのほかは血流の感度が非常に良いと感じました。

鎌田：検査が行われているのは消化器だけでしょうか。

元地技師：午前中は腹部、午後は心臓、頸動脈、血管系を実施しています。

病院としては、循環器系は循環器病院があるので、普通のルーチン業務が多くなります。初診時に循環器系に問題を発見すると循環器病院に連絡し対応しています。

EUB-8500にはRVSがついていますので、午後5時過ぎからRFAを実施する際に超音波装置の操作補助を行っています。

鎌田：RVSの有用性でお気づきになったことがあれば教えてください。

元地技師：超音波画像を描出しにくい症例では、RVSを使用することでCTと同期させることができるので安心感がありますね。

今回は、最新鋭の医療機器を用いて質の高い医療を実践されている浅ノ川総合病院の消化器内科部門において、当社の最新鋭機HI VISION Preirusをご利用いただいている荒木部長およびスタッフの方にお話をうかがいました。肝内結石破碎等、非常に先進的なことに取り組んでおられることから、さまざまな治療方法に対し積極的に取り組んでおられることを強く実感しました。

今回の訪問に際し、長時間にわたりご協力をいただきました小市勝之 理事長、荒木一朗 内科部長、元地進 技師、高橋美津子 技師および関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

※1 HI VISION Preirusおよび Preirus、※3 Sirius、※4 Star Mobileは株式会社日立メディコの登録商標です。

※2 NOVALiSはブレインラボ株式会社の登録商標です。



Sirius Star Mobile ※3 ※4



筆者(左)、北陸支店 村上課長(中)、溝口支店長(右)